

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳 印

実施場所：三笠高校 廃校の危機を乗り越えた高校の今を佐々木淑子三笠校長から学ぶ	実施日：平成 28 年 5 月 31 日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>募集停止確定から 1 年という短期間で、道立高校から市立高校の設立、何故、出来たのか。食物調理科を選んだ理由、生徒確保は出来るのか、市立化に伴う財政の負担増など、多くの課題を乗り越えた三笠高校の今を学ぶ。当日は、午後から北海道教育委員会の現地訪問指導日であったが、快く視察を快諾して頂いた。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>先駆の三重県多気町の相可高校では、入学者確保のほか観光客の増加など、高校教育をまちの活性化につなげた成功例があった。生徒の活動を通じて町に明るい話題を提供するなど、高校教育にとどまらずまちの発展を促す起爆剤となるのが期待できる、と判断した西城市長が、職員にすぐさま視察させ、多気町や高校の関係者が協力を快諾した事が、短期間の決定に繋がった。食物調理科を選択することにより、地元の豊富な農産物を調理実習の食材に使用。地産地消推進や主要産業の活性化が期待できた。</p> <p>保護者負担増や人口減少が、経済悪化や企業誘致に影響し疲弊していく可能性が大きくなる懸念もあり、影響額 2,000 万円であったが、高校生運営レストラン等による経済的効果が約 9,000 万円見込まれており、今年度レストラン建設に着手する。</p> <p>佐々木淑子校長は、中学生時に自分の歩む道を自分自身で決定した生徒が入学するので、真面目で前向きに楽しく授業を受講していると話されていたが、まさに、その通りであった。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>人口減少社会での高校存続は、大変大きな課題を持ち懸念することであるが、あらゆる分野、全国の事例から学び、直ちに職員派遣など積極的に行動すべきである。</p> <p>課題解決を模索することにより、庄原市の将来のあるべき姿が見えてくる可能性がある。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳 印

実施場所：おといねっふ美術工芸高校 廃校の危機を乗り越えたおといねっふ美術工芸高校の今を伊藤良平校長から学ぶ 廃校の危機を乗り越えた行政の手腕を左近勝村長から学ぶ	実施日：平成 28 年 6 月 1 日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>入学者が昭和 51 年 16 名、53 年 6 名になり、音威子府高校振興調査委員会を設立し工芸科導入を決定。54 年度 31 名、55 年度 67 名の入学者に至るが、平成 6 年まで、学校は荒れ、退学者が多数、住民の評価が低い時期があった。また、何故貴重な予算を他町村の子供に使うのか？ 地元の子供が進学しない高校に予算をかけ過ぎる、など意見の対立があったが、どの様に克服したのか。伊藤良平校長、左近勝村長から学んだ。</p> <div data-bbox="177 757 1115 1115"> </div>	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>北海道東海大芸術工学部や、家具作りの本場スウェーデンのレクサンド高校と連携協定を結び、交換留学など本物を学ぶことができる環境を整えた。三笠高校と同じく、中学生時に自分の歩む道を自分自身で決めた生徒であるため、授業が楽しいと目を輝かせていた。事実、放課後のクラブ活動は、実習室が生徒で溢れるほど盛んである、と伊藤校長がお話された。生徒、教職員全員に音威子府村への住民登録をお願いし、村民の 2 割が生徒と教職員で占める。運営経費は交付税措置されるが、村の財政負担は 5,000 万円追加負担されている。しかし、生徒が村民になることで交付税参入されており、高校をむらづくりの総合戦略に据えている、と左近村長。「夢を語ろう」「おと高校は村の基幹産業です」と話された。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>「あなたにしか作れないものがある」本物を学べる環境を整備した。この事により早稲田大学など有名校に進学する生徒が生まれた。生徒、教職員を村民にすることにより、財政負担にならず、高校をむらの中心総合戦略に置いている。大いに参考にすべきだ。学校体育祭と村民運動会を合併して開催し、生徒と住民の会話が出来ることにより、生徒が安心して生活出来る環境が整っている。</p> <p>庄原市は早急に高校存続問題に着手し、職員を派遣し多くを学ばせることが必要である。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 大志の会

報告者：門脇俊照 ㊦

実施場所：北海道三笠高等学校	実施日：平成26年5月31日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>本市には県立高校が4校あるが、少子化により、西城紫水高校、東城高校が定員割れで存続が問題になっている。</p> <p>特色ある学校づくりが言われているが未だ実行はされていない。本腰を入れて考える時期が到来している。</p> <p>今回は特色ある高等学校を視察しました。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>北海道三笠市、人口11,230人。</p> <p>北海道三笠高等学校、平成19年北海道立高等学校配置計画において、平成22年度から募集停止の発表。</p> <p>平成22年市議会で市立高校の設立を可決。（公立学校設置条例改正）</p> <p>平成24年4月、食物調理科（調理師コース・製菓コース）開校式・入学式。</p> <ol style="list-style-type: none"> 調理実習では三笠市の食材、農作物を使用し、地産地消推進や農産物PRなど主要産業の農業のさらなる活性化が期待できる。 市民を対象とした料理・食育教室など、食をテーマとした学科で地域活動が可能。 活動を通し、町を明るくする。高校教育で町の発展の起爆剤となることが期待できる。 <p>三重県多気町の県立相可高校は平成6年食物調理科を開校し、入学者の確保のほか観光客の増加など、高校教育を町の活性化につなげた成功例がある。</p> <p>◎三笠市の地域特性を生かすには「食物調理科」設立が有望と判断され実行。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>配置計画を真摯に受け止め、道立から市立への道のりには、多くの課題が論議されたと想像できますが、本市に於いても存続の危機が迫っています。</p> <p>学校を訪問し、佐々木校長先生から話を伺いました。</p> <p>一学年40名。調理師コース、製菓コースがあり、調理師コースでは理論・実習・講義のリンクした授業でレベルアップをはかっている。製菓コースでは基礎・基本・応用の徹底した積み重ねで実践力を身に付けている。</p> <p>講師には三重県相可高校出身の調理経験者を町の職員に迎え、製菓では札幌一流ホテルのシェフが講師をされていました。</p> <p>全国的な調理コンテストに積極的に参加し優秀な成績を収めておられました。授業参観をしましたが、生徒は目を輝かせ、真剣な授業態度が印象的でした。</p> <p>平成30年には、学校近くに高校生レストランオープン計画が進行中。</p> <p>生徒は、市内出身者は少ないが全道から来ていました。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 大志の会

報告者： 門脇俊照 ㊦

実施場所：北海道音威子府村	実施日：平成28年6月1日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>本市には県立高校が4校あるが、少子化により、西城紫水、東城高校が定員割れで存続が問題になっている。特色ある学校づくりが言われているが未だ実行はされていない。本腰を入れて考える時期が到来している。 今回は特色ある高等学校を視察しました。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>北海道おといねっふ美術高等学校、北海道音威子府村の人口は道内でも最も少なく、平成27年789人。このうち同校関係者は生徒120人、職員関係50人、村出身生徒は2人で、ほぼ全員が寮生活。 一学年40人。教育課程、1年生は基礎、基本を徹底的に学ぶ。2年から工芸、美術コースに分かれ、機械操作や本格的な製図、美術を学び、3年で集大成として作品を制作。各種デザインコンテスト、美術展に積極的に出展し好成績を収めている。 東海大学と高大連携し、大学キャンパスで行われるデザインスクールの講義受講、高校では大学教員による授業を行っている。 また、デザインの先進国スウェーデンのレクサンド高校と姉妹校提携を結び国際交流を行い、生徒を短期派遣している。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>道内一小さい自治体の挑戦は私たちが描いていた以上の苦労もあるが、それ以上に大きな成果をみせていました。 左近村長より、高校、村の話を伺うことが出来ました。 村の人口789人。その内高校関係者が170人、全員村民。夏祭り、運動会、大掃除など各種行事に積極的に参加している。生徒やOBがデザインし事業所が制作した商品を、道の駅や商店で販売。 高校関係者170名の暮らしは寄宿舎で36,000泊、108,000食が必要であり、村での購買、消費は大きい。 左近村長は「高校は地域の財産であり、村の基幹産業」と言われる。 音威子府村の財政、歳入20億円、交付税12億円、村債3億円、実質公債費率2.9%、介護保険料2千円台。 小さな自治体でも、やる気があればやれる。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。